

令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立城山東小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和6年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和6年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 22人

② 算数 22人

5 留意事項

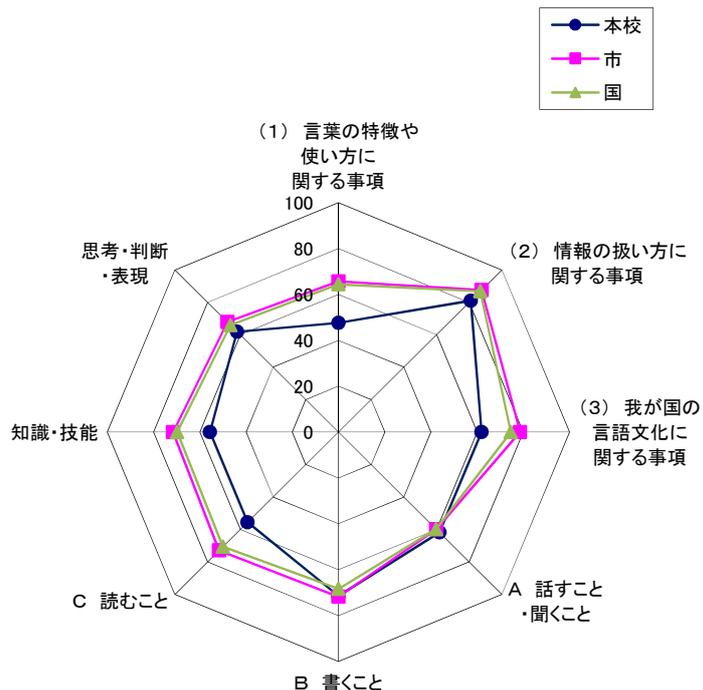
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立城山東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	47.6	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	81.0	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	61.9	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	61.9	59.9	59.8
	B 書くこと	71.4	71.8	68.4
	C 読むこと	55.6	72.9	70.7
観点	知識・技能	55.6	71.5	69.8
	思考・判断・表現	61.9	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●主語と述語や修飾と被修飾の関係の理解に課題が見られる。	・物語や説明文を中心に一文を取り上げて、主語と述語や修飾と被修飾の関係を問いかけるなどして、常時指導していく。
(2) 情報の扱い方に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し、使うことに課題が見られる。	・各教科においても、ウェビングマップを作成するなど、文章を読み取ってメモしたり、それを関係付けて表す機会を多く設ける。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は市の平均より低い。 ●読書が、自分の考えを広げることに関与することの気づきに課題が見られる。	・読書活動の機会を多く設けるとともに、複数の本を読み比べるなど、調べ学習の充実を図る。
A 話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均より高い。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から課題を決め、伝え合うことについては、身に付いている。	・総合的な学習の時間や他の教科や活動においても自分の考えを発表する場を意図的に設ける取り組みを継続していく。
B 書くこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○自分の考えが伝わるように、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書き表すことについて理解できている。 ●目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることに課題が見られる。	・調べ学習やまとめの学習の時に、付箋を使って情報を整理するなど、材料を分類したり関連付けたりする機会を意図的に作る。
C 読むこと	平均正答率は市の平均より低い。 ○人物像を具体的に想像することができている。 ●登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることに課題が見られる。	・物語文の学習では、登場人物の心情やそれに伴う行動などについて考える時間を十分に確保するとともに、話し合う活動を通して、考え方の幅を広げていくようにする。

宇都宮市立城山東小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがありますか」、「人が困っているときは、進んで助けていますか」については市の肯定的回答を上回っている。特に自分のよいところについては、9割以上が肯定的回答をしていることから、自己肯定感を高め何事にも意欲的に取り組んでいることが分かる。一方で、あてはまらないと回答した児童もいることから、自分のよさに気付けるように、生活の様々な場面において認め励ます機会を増やしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」、「友達関係にまんぞくしていますか」については全員が肯定的回答をしている。良好な友達関係を築き、他者を思いやる気持ちが伺える。今後もより良い関係が維持できるように、子供たちの声を聴き、皆が気持ちよく生活できる環境を目指した指導を行っていきたい。

○ICTの活用に関する設問では、半数の設問で肯定的回答が市の平均を上回っている。特に、「ICT機器を活用して、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる」についての肯定的回答が市の平均を大きく上回っている。引き続き学校生活や授業の中でICT機器の活用を積極的に行い、全員が自信をもってICT機器を操作し学習や交流の効果を高めていきたい。

○「国語の勉強は大切だと思いますか」、「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」については、ほとんどの児童が肯定的回答をしている。国語の力が他の教科でも理解する力の土台となっていることや、語彙力や論理的思考力を身に付けることで、現在の学習だけでなく、将来、社会人となってからも必要な力だと認識していることが分かる。今後も、読書や議論する時間などを設け、しっかりと国語力を付けられるよう、支援していく。

○「算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えますか」算数の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしていますか」についての肯定的回答が市の平均を上回っている。今後も、粘り強く課題に取り組む姿勢や集中力を高めるために、興味関心を高める授業を展開し、主体的に学習に取り組む力を育てていきたい。

●「健康に過ごすために、授業で学習したことや保健室の先生などから教えられたことを、普段の生活に役立てていますか」の質問については、市の肯定的回答を下回っている。休み時間や給食の時間に実施している健康的な過ごし方についての放送や、保健に関わる出前授業などを引き続き実施し、自分で判断し行動できる力が身に付くように指導していきたい。

●「将来の夢や目標を持っていますか」については、市の肯定的回答を下回っている。各教科や道徳、学活の学習内容についてキャリア教育と関連させながら効果的な指導ができるようにする。また、働くことの大切さを学ぶとともに、様々な職業への関心を高め、将来の生活への期待を高めさせていきたい。

●「国語の学習は好きですか」「算数の学習は好きですか」については、市の肯定的回答を下回っている。一方で「国語（または算数）の授業の内容はよく分かりますか」については、それぞれ市の肯定的回答を上回っている。分かった・できた喜びを感じる機会を増やし、意欲的に学習に取り組めるように、楽しい授業の工夫を実施し基礎基本の習熟を図っていききたい。

宇都宮市立城山東小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
復習により定着を図る学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「宮っ子学習ステップアップシート（漢字・計算）」の計画的な実施。 ・漢字・計算繰り返し練習を取り入れた、意図的な家庭学習の設定。 ・朝の学習「城山ぐんぐん式」（国語・算数における基礎基本の繰り返し学習）の実施。 ・朝の学習の状況や学習内容について定期的な振り返りや見直しの検討。 ・朝の学習での、担任以外の教職員の活用。 ・AIDリルの活用。 	<p>○質問紙における回答では、国語や算数の学習が大切であるとする児童が多い。</p> <p>○国語「話すこと」では、正答率が市をやや上回った。</p> <p>○国語「情報の扱いかたに関する事項」では、正答率が市の平均とほぼ同等であった。</p> <p>●国語「読むこと」や算数では、正答率が市を下回った。</p> <p>●算数では、全区分で市の平均正答率を大きく下回っている。特に、「変化と関係」などの思考・判断・表現において課題が見られる。</p>
言語活動の充実による主体的・対話的な指導の実践	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもたせるための、学び合い活動の意図的な活用。 ・学び合い活動での課題設定や発問の工夫。 ・自分の思考イメージの外化（絵・図、言葉、計算式、ロールプレイ、具体物等）をしてから話し合う、学習過程の工夫。 ・ペアや少人数、グループ等の学び合い形態の工夫。 ・発達段階に応じた話し方・聞き方の指導や話し合いのポイントを示した掲示資料の活用。 	<p>○国語「話すこと・聞くこと」では、正答率が市の平均を上回った。</p> <p>○国語「情報の扱いかたに関する事項」では、正答率が市の平均とほぼ同等であった。</p>

<p>実感を伴った知識を身に付けるための、作業的・体験的活動の充実</p>	<p>・日常生活における身近な物を測ったり身近な事象に目を向けたりする機会の、意図的な設定</p>	<p>○算数「円グラフ」の特徴の理解や割合の読み取りでは、市の正答率を上回った。 ●算数の情報や数値を読み取り立式する内容では、市の正答率を大きく下回った。</p>
---------------------------------------	---	--

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<p>国語では、言語についての知識・技能、特に「読むこと」について課題が見られた。 算数では、基礎基本の定着が課題です。また、自分の考えを必要な言葉を使って表現することに課題が見られる。</p>	<p>国語の漢字・算数の計算に重点を置いた復習や練習問題を繰り返し学習することにより、基礎基本の定着を図る学習の充実 自分の考えを表現する学習の充実。</p>	<p>・既習漢字の確実な定着を図るために、朝の学習や家庭学習の課題等で、前学年までに学習した漢字の復習を繰り返し行う。 ・朝の学習で、文章の視写の学習を行い、文章の書き方や構成の理解を深める。 ・各教科で、自分の考えを表現するために、分量や用語などを用いて文章にまとめる活動を意図的に取り入れ、理解を深める。 ・ICT(AIDリル)を積極的に活用して繰り返し学習を行うことで、学習に対する意欲を高め、基礎基本の定着を図る。 ・自分の考えをもつための手立てや発問の工夫を行い、自分の考えを文、図、絵などで表現する活動を意図的に取り入れる。</p>